

三浦半島4市1町 ブルーカーボンの取り組みで連携

令和6年(2024年)5月17日(金)

三浦半島4市1町

取り組みの背景

- ・相模湾の沿岸では、海藻を食べる魚やウニの増加や海水温上昇などにより、水産資源の生育場である藻場が消滅する「磯焼け」が進行
- ・アマモなどの海草や海藻など、海の生物の作用で海中に取り込まれる炭素は「ブルーカーボン」と呼ばれ、吸収源対策の新しい選択肢として注目
磯焼け対策を進めることで、脱炭素の取り組みも進む

これまでの経緯 1 三浦半島4市1町 首長懇談会 (令和5年8月18日)

テーマ「三浦半島×ブルーカーボン」

- ・各市町の取り組み内容を共有
- ・磯焼けやBCの取り組みを連携して進めることの意見提案 ⇒ 検討開始

	主な取り組み内容	
横須賀市	・ 磯焼け対策として、ウニ・アイゴの駆除や、民間と連携した、ミニストーン工法（※1）による藻場の造成 ・ Jブルークレジット®（※2）の申請と認証（令和5年12月）（CO2吸収量0.6t）	※1 かご付きでウニやアイゴ等から物理的に藻場を守る工法 ※2 ブルーカーボンのCO₂吸収量を貨幣換算したもの
鎌倉市	・ 磯焼け対策として、ウニ駆除や砂浜に打ち上げられた海藻の利活用・母藻（※3）を海に戻す活動に対する支援	※3 海藻のうち、胞子を排出できる状態にあるもの
逗子市	・ 漁業者や市民団体による磯焼け対策としてウニ駆除 ・ 地元企業等による藻場の造成	
三浦市	・ 磯焼け対策として、ウニ・アイゴの駆除 ・ 早熟カジメの試験的な育成と藻場の保全	
葉山町	・ 磯焼け対策としてウニ駆除、藻場造成（母藻の設置、アマモの種苗生産・移植等） ・ 地元漁協によるJブルークレジット®の申請と認証（令和4年12月）（CO2吸収量46.6t）	

これまでの経緯 2 日本テレビ放送網株式会社

・開局70周年企画

海の環境保全に関わる活動を推進するため

「日本列島ブルーカーボンプロジェクト」をスタート

番組『ウミコイー今 海に出来ることー』の放送開始（昨年10月から）

日本全国の“海を愛する人々”を紹介しながら、ブルーカーボンの重要性を発信

プロジェクトの学術監修として、榘太一氏（同志社大学ハリス理化学研究所助教）を招聘

一般社団法人UMI SUKEの設立

海の環境保全やブルーカーボン、地域振興施策などについて専門な知見を持つ

スペシャリスト集団

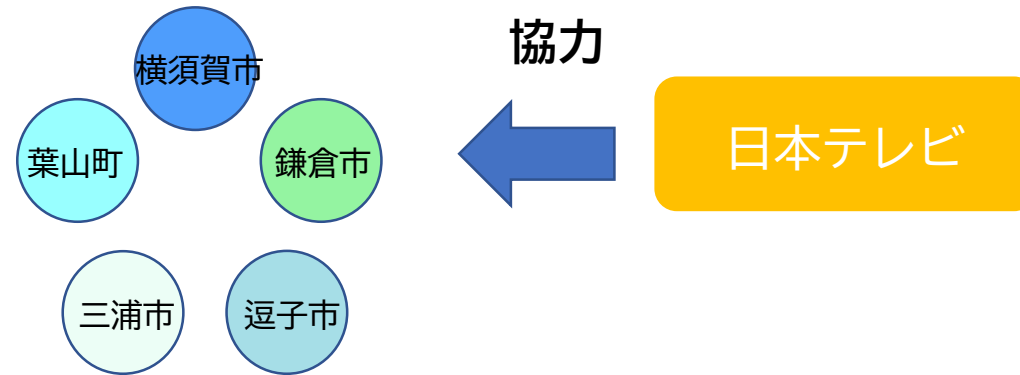
※木村尚氏（NPO法人海辺づくり研究会理事）、桑江朝比呂氏（ジャパンプルーエコノミー技術研究組合理事長）、佐藤大吾氏（NPO法人ドットジェイピー理事長）



三浦半島からプロジェクトを始動したい

今回までの経緯 3 三浦半島4市1町と日本テレビ放送網株式会社

三浦半島4市1町

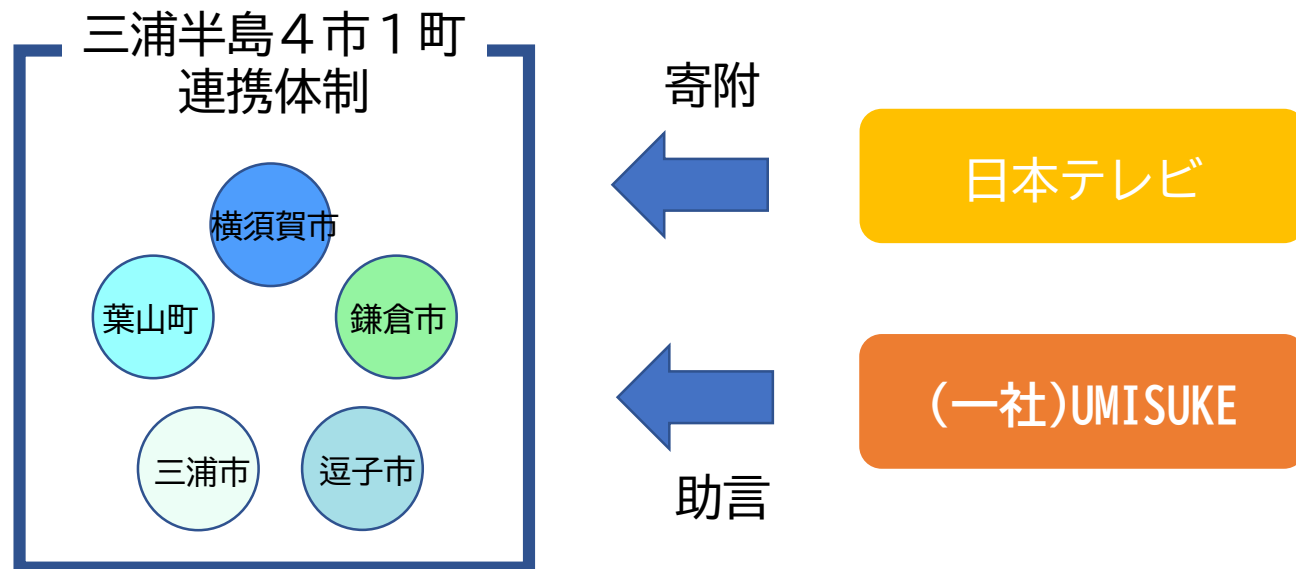


三浦半島4市1町と日本テレビ放送網株式会社で共同リリース（令和5年10月6日）

- ・ 海の豊かさを将来に向けて守っていくことを共同で表明

二酸化炭素の吸収源となる藻場の再生（ブルーカーボン）や、漁業振興に向けた磯焼け対策、また多くの人々にアクションを起こしてもらうための意識啓発の施策やスキームについて、検討

キックオフ



三浦半島4市1町の連携始動

- 課題解決に向けた手法や知見を共有するため、
連携体制（三浦半島ブルーカーボン推進会議）を構築 ⇒ 共通の規約をもって進めることを明文化

日本テレビ放送網株式会社

- 取り組みに支援するため放送での取り上げと地方創生応援税制（企業版ふるさと納税）などによる寄附を実施
- （一社）UMISUKEのもつ、専門的な知見に基づいた助言の提供

各市町の取り組み（予定）

	取り組み内容	詳 細
横須賀市	藻場の再生	相模湾（長井）におけるカジメ場の造成
	海洋環境問題の啓発	市民によるアマモの植え付けや観察、セミナーの開催など
鎌倉市	海洋環境問題の啓発	公立小中学生を対象とした海の環境に関するPBL（課題解決型学習）
逗子市	藻場の再生	藻場を増やす事業者の取組に対する補助
三浦市	藻場の再生	城ヶ島におけるアマモ場の造成 諸磯におけるカジメ場の造成
葉山町	海洋環境問題の啓発	・ブルーカーボンの啓発イベントの開催 ・ブルーカーボン教材（アマモブック）の作成